

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	一人一人の「その人らしさ」にこだわり、業務を優先することなく理念の実践に心掛けている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	ご利用者の散歩に出かけることにより、近所の方との会話がおのずと増えている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

すずらん(グループホーム)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域活動として自治会・民生委員・地域包括と協賛で地域の高齢者等の暮らしについてテーマを決めて取り組んでいる。初期消火訓練で、消火器の使い方を消防署の方が来所して地域の方も声をかけたが誰も参加者がなかった。</p>	○	<p>認知症の理解者を増やすために地域に向けて取り組んでいきたい。悩みごとなどあれば気軽に相談してもらえるようにしていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価そのものが事業所にとってプラスに結びつくという観点で行っている。管理者が評価したものを常勤職員に閲覧してもらい、修正・補足を行っている。外部評価を活用し今後の取り組みに反映していきたい。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今のところ事業所からの説明・報告に重点が置かれている。メンバーからの意見も積極的になってきている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>課題があったときには電話・訪問で協議している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>事業所内で勉強会を開催し、地域福祉権利擁護制度について事業所内で勉強会を開催している。また、小規模多機能連絡会にて成年後見制度の学習に参加している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者の話し合いや身体の傷などがないか、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		

すずらん(グループホーム)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に本人・家族より希望を聞き事業所として支援できる内容を伝え、理解・納得して頂けるように努力している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常会話の中で不満、要望を拾い上げるよう心がけている。その中で、気づいたことはスタッフミーティングで取り上げ共通認識とするように努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>転倒や受診の状況などについては、家族に連絡し、報告している。日々の生活状況については、家族が来所されたときに報告をしたり、月一回まとめて請求書と一緒に、文章にて報告をしている。金銭に関わることは、キーパーソンに連絡し同意を得ている。</p>	<p>○ 新任職員の紹介がなされていない時があり、すずらん新聞を通して行っていく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来所時に、家族との会話の中で要望などを拾い上げられるように心がけている。気づいたことは、スタッフ間の共通認識とするよう話し合っている。</p>	<p>○ 不満や要望は、ご家族の口からはっきり言えないものなので、発せられる一言一言を敏感に感じ取れるスタッフでありたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回スタッフ会議を開催している。日常のミーティング等でスタッフの意見を聞く機会を設け反映させていくよう努力している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事などで、スタッフが必要な場合は月単位で調節して組んでいる。また緊急な場合においては、勤務の調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動と退職者が数名ありました。採用した職員については、コミュニケーションを大切にしてもらい、少しずつ学んでいただきながら業務配置としている。</p>	

すずらん(グループホーム)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内・外の研修は、積極的に取り組んでいる。職員をチームごとに分けて利用者の課題について取り組み、報告会をしている。</p>	<p>○</p> <p>チームを作り、一年を通して事例研究を行い、事業所内での発表をしている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会にて、管理者や職員研修に参加している。他事業所のグループホームと交換実習を行い、サービスの質向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>希望休を優先にした勤務を配慮している。職員同士のコミュニケーションを大切にして、前向きな取り組みができるように工夫している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課制度を取り入れ、自己評価スキルアップをめざしていけるように取り組んでいる。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>来所していただき、雰囲気や設備などを実際に見てもらおうようにしている。管理者・ケアマネが同席するよう心がけている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の労をねぎらうような言葉がけを心がけている。家族の希望される日時に合わせて、管理者・ケアマネが同席し話を聞くように努めている。</p>	

すずらん(グループホーム)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを挙げ、優先順位を決めて対応している。具体的に物事を進めていくプロセスを本人又は、家族に、説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族ともに来所していただき、事業所内の見学・雰囲気を感じていただくように働きかけている。また、小規模多機能型居宅介護を利用されている方に関してはなじみの関係の中、入所していただける。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ゆったりとした時間を一緒に共有する中で、その人の言葉・行動・表情からたくさんのことを教えられ、納得させられる日々である。認知症の方に、その存在の重さを伝えていきたいと思っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方の協力があってこそその関わりである。ご家族との連絡を密にし、一緒に喜怒哀楽を共に出来るよう、家族との関係を築くようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	離れていても、ご家族と本人のより良い関係の継続・また離れたことにより、修正出来る関係がある。決してあきらめず、自分たちの役割を認識し本人と家族を支援していきたいと考えている。	○	なかなか来られない事情の家族には、自宅にご本人をドライブがてらお連れしたり、遠い方にはご本人に電話に出てもらいお互い良い関係性が保てるように支援させていただいている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所へ出かけたり、友人や知人の来所など支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で支えあったり、そっと寄り添うなどの関係性が出来ている。中には、口論になることもあるので、仲を取り持ったり、関係を修復できるように支援している。集団でのあり方と個々での生活リズムに気を配るよう努めている。		

すずらん(グループホーム)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了となっても、関係性は大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年度の年間目標としてご利用者の希望を募り、一泊旅行、日帰り温泉、外食など実施しました。また、個々の生活環境から暮らしのあり方や要望をご利用者、家族から聴取するように心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの人生・生活歴・性格等情報収集に努めている。日常会話や行動などから、過去の出来事などを把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの日中の過ごし方を把握することで、より効果的な声かけ・対応が出来るように心掛けている。	○	ケア会議と通してケアのあり方を検討している。それを元にその人らしさをマネジメントしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いに添っていけるよう、意見交換を行い、よりよい支援(介護計画)を心がけている。	○	ご利用者の言葉や思いを拾い短期プランとしてあげ実践することに努めた。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直している。また、状況変化が見られた場合など家族・職員と情報収集をして新たなケアプランを作成するように心掛けている。	○	ケア会議で上がってきた内容をプランに反映させ、モニタリングにて評価し、見直しを行っている。

すずらん(グループホーム)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々記録をしている。ミーティングノートを使い、スタッフが関わる際に統一できるようにしている。また、月1回ケア検討会を開催し、共通認識できるケアに取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人からの要望があれば、要望が添えるように、場合によっては、家人に連絡して了承を得てから対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ふれあいサロンに参加した場合は、自治会の方や民生委員さんにお世話になっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当事業所にて安定しているため、他のケアマネ等の話し合いの場はありません。今後のサービスを考える中で、特養の申し込みなどの支援は行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護については、対象者がおられません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所前からのかかりつけ医で受診している。基本的に家族で受診をお願いしているが、都合で無理な場合や緊急の場合などは支援している。		

すずらん(グループホーム)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他のご利用者の前で尊厳を損ねるような言葉、態度をとらないように気をつけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その人が理解できるような、できるだけ分かりやすい言葉で説明し、たとえ理解できない状況があっても、一つのことに納得して自分の意思で選択していただけるよう様、ご利用者の気持ちを大切にしながら対応するように努めている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りその人のペースにあわせ、業務を優先することのないようスタッフ一人ひとりが意識して支援している。毎日のレクリエーションや外出も、一人ひとりに声かけはするが、その日の気分もあるので本人の気持ちを汲み取った対応を心がけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧品を希望される方は一緒に買い物に行ったり、理美容に関してもなじみの店へ行くようにしている。	○ お化粧をされることをしなくなってきておられる方もいるのでお化粧ができる機会をつくりたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食事の準備、片付けなど興味のある方は参加してもらっている。自分の役割として、積極的に参加される方もおられる。	○ ご利用者の意向を取り入れ、オリジナルのメニューを取り入れていきたいと考えている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きな飲み物などを聞きながら提供している。その方の楽しみ・こだわりの一つとして、ヤクルトなど個人購入している。希望に応じてお酒を飲んでもらっている。	

すずらん(グループホーム)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自分からトイレに行かれない方は排泄パターンを調べ、失禁の不快感がないようにトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	女性の場合は、できるだけ女性が介助に入るように支援している。その方の習慣と本人の希望を取り入れ、毎日の方、週に3回の方、二回の方などまちまちである。	○	季節により柚子風呂や入浴剤も使用している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は、本人の体調に合わせて随時休息をとっていただき、夜間も本人のペースに合わせて消灯・起床していただいている。眠れなく何度も起きてこられる方には話し相手になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中では、おのずと自分の役割の認識をされており、家事の中でも、洗濯物の干し・たたみに関わる人、調理に関わる人、掃除の手伝いをされる方など自分の出来ること、興味のあることに参加されている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の自己管理は困難で基本的にはもたれていません。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は一人ひとりに声をかけ、行きたい人がドライブや、近隣の散歩・買い物に出かけます。地域の催し物があるときや、季節を感じられる時期には、行く人が偏らないよう交代で行けるよう配慮している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	馴染みの理美容にでかけたり、図書館へ行ってみたい、事業所の行事で、コスモス園やピクニック・音楽会などの外出支援を行っている。	○	行事以外にも個別に食事や買い物など本人に合わせて外出していきたい。

すずらん(グループホーム)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が書いた手紙をご家族へ郵送したり、本人が電話をかけたりご家族からかかってきた電話をつないだりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	野菜をよく持ってきてくださる方があったり、仕事の合間に来られたり、孫・ひ孫も登場し、なかなかゆっくりとはしていただけない状況はあるが気軽に来ていただけているのではないかと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何がその人にとって拘束なのか・・・を常に考えて取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、グループホームの玄関は必要時以外開放をしていない状況にあります。建物の玄関を開けるとすぐ前が車道になっていて、道路が狭い割には車が多いため、常時開放が厳しい状況にあります。居室・トイレなど内部は鍵はありません。職員は鍵をかけることの弊害を理解している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、ご利用者の行動パターンを把握することで自分の身の置き場所を考え見守りを実施、場を離れるときは必ずスタップに声をかけるようにしている。夜間は2時間体制で巡視を行い、安否確認の状況を記録するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手に触れるものは何でも持ち歩かれ、いろんな場所に置いてこられるが、物を全て排除するのではなく、常に所在確認をし、見守りを行なうことでまずは対処している。又同時に何でも口に入れられるので、職員間の連携でご本人の所在、動きから目を離さないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行する場所に障害物を置かないようにしたり、見守りの必要な人から目を離さないようにしている。また薬はNSが管理し、内服確認も、再度名前と時間の確認をし、確実に飲めたかどうかを見守っている。ヒヤリハットの記録をスタッフが共有し、同じことが繰り返されないように日頃から意識を持って取り組んでいる。		

すずらん(グループホーム)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間帯の手薄な職員での急変時対応など勉強会にて取り組みをしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成し、避難訓練・災害対策に取り組んでいる。地域への働きかけもしましたが、参加はありませんでした。	○	初期消火訓練など地域の方も参加を呼びかける。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクに対して家人と話し合いを持つようになっている。その人らしさを大切にされた生活に対して、対応策を話し合い職員で共有していくよう心がけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化に注意し、介護職と看護職とで連携を図り、家人への連絡、医師への連絡等に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が管理しており、服薬の援助は、介護スタッフが名前と時間を再度確認した上で本人に手渡し、飲み込まれたかどうかまで確認するようにしている。誰がどんな薬を飲み、その薬にどのような副作用があるのか、まだ十分には理解出来ていないように思われる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ、牛乳・ヨーグルト・果物・にがりなどで排便を促すようにしている。体操やレクリエーション・散歩などで身体を動かしてはいるが、まだまだ取り組みが不十分である。	○	散歩や運動の時間を増やして便秘解消に繋げていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人の記録表の口腔ケアの欄を見ると、確実にしているのは夕食後だけである。総入れ歯の方はこちらで管理ができるので清潔を保てるが、ブリッジや、ご自分の歯はなかなか清潔が保てないのが現状である。		

すずらん(グループホーム)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者に食材を委託し、栄養バランスを考えたメニューで調理をしている。個々の食べる量に合わせ盛りつけし、メイン食が嫌いなものであった場合は代用食を準備し、できるだけ個人の要望に答えるようにしている。また、個々の体調にあわせ形態を変えるようにし、水分の量も十分にとれているかをチェック表で管理するようにしている。	○	季節特有のメニューや食材も取り入れていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染についてのマニュアルは作成しているが、一つひとつについての勉強会は、不十分である。予防のための手洗い・うがいについては、行うようにしている。又、衛生面で、床や手すりなどハイター消毒を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理をするスタッフ・ご利用者の手指の消毒、まな板などの台所製品の消毒を実施している。食材は二日に一回買出しに行っているので余分なものを買うことは無いが、パンや飲み物で期限切れのものが出た場合や、その日の調理品はその日のうちに処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の玄関を開けるとすぐ前が車道になっていて、道路が狭い割には車が多いため、常時開放が厳しい状況におかれています。散歩などの外出や家族の出入りは、必要時のみ開放できるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから日本庭園がみることが出来、季節感を味わっていただけるようにしている。また、季節のお花を生けるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの落ち着いた居場所が出来ているようである。イスをたくさん置き、自分の居心地の良い場所が選べるように工夫している。		

すずらん(グループホーム)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、なじみの家具を持参していただくようお願いしている。仏壇を持ってこられている方、家族の写真が飾ってある方など居室の雰囲気はさまざまである。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の時間以外にも、時々窓を開け空気の入替えを行ない暖かすぎないようにエアコンの調節も適宜行なっている。温度計・湿度計を置き、室内がよい状態に保っているか気にかけるようにしている。冬場は加湿器を設置し、暖房による乾燥を予防している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりも充実しており、通路の足元には物を置かないようにしている。玄関の段差・洗濯物を干すときの二階に上がる階段は、ご利用者を限らせていただき、見守りを行なっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者の希望により、トイレに「入ってます」の掛札をぶらさげている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキに出て、お茶やコーヒーを飲んだり、一緒に布団を干したりと、1つの空間として利用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

すずらん(グループホーム)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

いつまでもその人らしい生き方をしてほしいと願い、ご利用者・ご家族・地域との心のふれあいを大切にしています。ご利用者の持つておられる能力(調理、配膳、片付け、洗濯、掃除など)を活かして日々サポートさせていただいています。また、日々のご様子をご家族の方にお伝えさせていただいております。毎月すずらん新聞を発行し、ご家族や地域の方々に配布や回覧をさせていただいています。一人でも多くの方が、認知症という病気を理解していただき、事業所と地域との隔たりのない自由に行き来が出来、そして一緒に取り組みが出来るとなりたいと考えております。